巻頭特集

地域に愛され輝く、中学硬式野球の強豪
桑員（そういん）ボーイズ／ブルーナイン

青々とした鈴鹿山脈を望む専用グラウンドで、白球を笑顔で追いかける桑員ボーイズの選手たち。チーム設立から26年。さまざまな大会で優秀な成績を残し、全国的に注目されるチームへと成長しました。

さまざまなサポートが充実 高校野球で活躍する選手を

　まもなく始まる全国高等学校野球選手権三重大会。どの高校が甲子園球場の土を踏むのか、楽しみにしている人も多いのではないでしょうか。

「いなべ総合、津田学園、桑名工業、暁のエースとキャプテンが全員桑員ボーイズの卒団生なんです。ここで育った選手の活躍が一番うれしい」と笑顔で話すのは、結成当初からチームを支える桑員ボーイズの出口紀幸会長。全国大会出場とともに、高校野球で活躍する選手を輩出するのが、チームの目標です。

　いなべ市や桑名市などの北勢地区を中心とした中学生66人から成る、桑員ボーイズ。地元の中学に在籍する選手は5割程度で、伊賀市や県外から通う選手もいます。

桑員ボーイズ
出口 紀幸会長
「うちではレギュラーじゃなくても、高校で活躍する選手がいます。野球が好きなまま、気持ちよく高校に送り出してあげたいですね」

　これまで春夏合わせて、全国大会に7回出場。中日本大会や中日ドラゴンズ杯でも好成績を収め、近年では日本代表選手も輩出しています。

　いなべ市にある専用球場では、多くの大人が練習を見つめています。桑員ボーイズには、保護者とは別に20人のスタッフが所属。ボランティアでチームのサポートを引き受けています。球場へは、保護者の送迎が必須。「ケガなどの危険もあり、無駄な体力を使ってほしくない」と、近隣に住む選手であっても自転車で来ることを禁止しています。「練習内容はいたって普通です」と指導陣。保護者やスタッフによる手厚いサポートが、強さの秘密かもしれません。

　そのほかにも保護者に対して食育セミナーを開催。糖分や炭酸飲料を控えるなど、野球選手としての体づくりに必要な知識を学びます。土曜・日曜の練習日には8時～17時の間に食事を3回。「厳しい練習をしていると、通常の食事だけでは身体が成長しません。甲子園出場校では相当量を食べなければならないので、その意識付けも兼ねています」という、出口会長の言葉のとおり、グラウンドを見渡せば大人顔負けの体つきが目を引きます。

　数多くの試合を勝ち抜くためには技術だけでなく、強い心も重要です。昨年度からはメンタルトレーナーによる指導を開始し、試合前の独特な円陣が誕生しました。一般的な円陣と比べて長い時間を要しますが、大きな声を出し、気持ちを鼓舞。すると、緊張の面持ちだった選手たちには笑顔が戻ります。楽しさが気迫につながり、チームを勝利に導くようです。

キャプテン／センター・サード
坂枝 泰成選手
（いなべ市）
小学３年生までしていたサッカーと陸上部で培われた俊足が持ち味。
「声をたくさん出して、みんなが元気にプレーできるようにしたいです」

エース／ピッチャー・ライト
橋本 拳汰選手
（いなべ市）
190センチの長身を生かして繰り出される力強いピッチングが武器。
「体力をつけて、バッターに常に向かっていける選手になりたい」

ピッチャー・セカンド
浅生 佳穂選手
（伊賀市）
桑員ボーイズ初の女子選手。プレーはもちろん、はじける笑顔でチームを盛り上げます。
「チームの雰囲気がとてもよく、女子選手も増えて楽しく野球をしています!」

8度目の全国大会へ「勝利」が地元への恩返し

「この地域に野球少年を増やしたい」

　26年前、社会人野球チームが15人の中学生を集めて、指導をはじめたのが「桑員ボーイズ」のはじまり。当時社会人チームに所属していたのが、鵜飼繁昌監督です。

　全国大会に初出場したのは、結成から10年以上を経た２００４（平成16）年。「それまでは、高校野球で一人でも多く、レギュラーで活躍できる選手を輩出したいと、全選手を均等に試合に出していました」と鵜飼監督。結果にこだわるようになったのは、出口会長の「私を一回胴上げしてくれんか」の一言だったといいます。

　レギュラーチームを編成し、個々の能力だけでなくチームとしてのレベルをアップ。近年は、県内や東海地区の大会で数々の好成績を収め、全国大会にも出場しています。

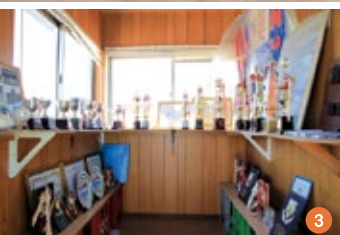
「最近では『くわいん』ボーイズと間違われるのも減ってきました」と笑う鵜飼監督。確実に強豪チームとして全国に「桑員ボーイズ」の名が広まっています。

　専用の球場は10年前に完成。1万坪という広い敷地に、メーングラウンドとサブグラウンド、屋根付きの練習場など、恵まれた野球環境が整備されました。「自前のグランドだと質の良い練習ができるし、他チームを呼んで練習試合もできます。多くの地域の方のご理解やご支援に感謝します」と出口会長。たくさんの支援や応援に対して、勝って恩返しをしたいと考えています。「名が知られるようになって、入団を遠慮している子もいるのではと感じることもあります。地元の子どもたちにもっと入団してもらって、さらに地域を盛り上げていきたいですね」と地元野球少年の入団を期待します。

　今年のチームは、春季全国大会への出場は逃したものの、先日行われた三重県支部予選で優勝。夏季全国大会への切符を手にしました。また、「ジュニア・オール・ジャパン２０１７」に選ばれた橋本拳汰選手をはじめ、全員東海地区の選抜に選ばれた3人の女子選手など、各選手の活躍が期待されています。

　三重県の夏を盛り上げる高校球児を輩出する桑員ボーイズ。チーム全員が「全国制覇」を目標に、練習に励んでいます。

　今年の夏は、桑員ボーイズと卒団生の活躍に注目したいですね。

鵜飼 繁昌監督
「県全体の野球レベルが上がっているように感じます。今年のチームは大人しいので、もっと『野球バカ』になってほしいです」

①外部からの指導員が月に数回訪問。外部講師が来るたびに、練習に気合が入ります　②グラウンドのほかにも、事務所や屋根付きの練習場などがあり、練習試合になると多くの人が見学に訪れ、応援に来る人々のコミュニティーの場にもなっています　③球場の一角にある「桑員記念館」。ほんの一部のトロフィーや賞状とともに、「必笑」の折り鶴が掲げられています　④練習グランドに並ぶ記念碑は全国大会に出場するたびに会長が建立。今年もまた一つ新しい碑が立つ予定です　⑤ユニホームは、監督の母校で愛知県の大学野球の強豪・愛知学院大学と高校野球の名門・大阪桐蔭のカラーがモチーフ

練習中も大きな声を出し合い、諦めずにボールを追いかけます

[INFORMATION] 桑員ボーイズ

[実施日]
土・日・祭日 ※体験・見学可能日は問い合わせを。
[時間]
8:00～17:00頃まで
[練習場所]
桑員球場（いなべ市員弁町北金井）
[問い合わせ]
連絡先:
090-3259-2727
（新井）
Email:
soinboys2013@gmail.com

練習は土日の８時～17時。平日は陸上部に所属して体力づくりに励む選手が多いそう。現在、女子選手は各学年に１人。男子選手に負けず元気にダイヤモンドを駆け回ります

文／青野穂波　写真／D-studio　デザイン／chica